

「ぶどう園と農夫のたとえ」

2015年11月24日

ルカによる福音書 20章9節～19節。イエスは民衆にこのたとえを話し始められた。「ある人がぶどう園を作り、これを農夫たちに貸して長い旅に出た。収穫の時になったので、ぶどう園の収穫を納めさせるために、僕を農夫たちのところへ送った。ところが、農夫たちはこの僕を袋だたきにして、何も持たせないで追い返した。そこでまた、ほかの僕を送ったが、農夫たちはこの僕をも袋だたきにし、侮辱して何も持たせないで追い返した。更に三人目の僕を送ったが、これにも傷を負わせてほうり出した。そこで、ぶどう園の主人は言った。『どうしようか。わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう。』農夫たちは息子を見て、互いに論じ合った。『これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる。』そして、息子をぶどう園の外にほうり出して、殺してしまった。さて、ぶどう園の主人は農夫たちをどうするだろうか。戻って来て、この農夫たちを殺し、ぶどう園をほかの人たちに与えるにちがいない。」彼らはこれを聞いて、「そんなことがあってはなりません」と言った。イエスは彼らを見つめて言われた。「それでは、こう書いてあるのは、何の意味か。『家を建てる者の捨てた石、／これが隅の親石となった。』その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう。」そのとき、律法学者たちや祭司長たちは、イエスが自分たちに当てつけてこのたとえを話されたと感じたので、イエスに手を下そうとしたが、民衆を恐れた。

上記の御言葉は、主イエスご自身が語った譬えではないだろう。主イエスを信じる教会が建ち、エルサレムがローマ軍によって滅ぼされたことを知る福音書記者たちが書き加えた譬えと理解してよい。さて、群がる民衆と律法学者、祭司長たちに譬えを語られた。ぶどう園主が農夫にぶどう園を貸し与え、旅に出た。収穫期になったので収穫物を納めさせようと僕を農夫の所に送った。農夫たちは僕を袋叩きにし、空手で追い返した。他の僕を送ったが、農夫たちはその僕も侮辱し、空手で追い返した。三人目の僕を送ったが、傷を負わせ放り出した。僕たちは旧約聖書の預言者を指している。ぶどう園主は「どうしようか。わたしの愛する息子を送ってみよう。この子ならたぶん敬ってくれるだろう」と息子（主イエス）を送った。農夫たちは息子を見て「これは跡取りだ。殺してしまおう。そうすれば、相続財産は我々のものになる」と論じ合い、ぶどう園の外に放り出し、十字架で殺してしまった。ぶどう園主は戻って来て、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の人たち（ローマ）に与えるにちがいないと語られた。聞いていた人々は他の人たち（ローマ）に与えてはなりませんと言った。主イエスは、詩編 118 編 22 節を引用し「『家を建てる者の捨てた石、／これが隅の親石となった。』その石の上に落ちる者はだれでも打ち砕かれ、その石がだれかの上に落ちれば、その人は押しつぶされてしまう」と答えられた。建築の専門家が不要として捨てた石が隅の親石になって、新建築物が建った。そのように、あなた方宗教の専門家である律法学者、祭司長たちが邪魔者として殺した私（主イエス）を親石として新しいキリストの教会が建つ。

聞いていた律法学者や祭司長たちは、自分たちの殺意を譬えにして話されたことに気付いて、怒り、すぐにも命を奪いたかった。しかし、主イエスを支持し尊敬する民衆を恐れ、手出しすることができなかった。神殿当局の主イエスに対する殺意は更に深まっていった。福音書著者たちは、齒に衣着せぬ主イエスの姿を描き出している。